

山川の文化財

第一集 指定文化財



鹿児島県揖宿郡山川町教育委員会

◎表紙絵は、「薩藩勝景百図」の山川港

（東京大学史料編纂所々蔵）

◎題字は東 栄寿（山川町助役）

❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖ 目 次 ❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖

1.	発刊にあたって	山川町教育委員会教育長	2頁
2.	古為今用	山川町文化財保護審議会々長	3
3.	山川町文化財一覽		4
4.	山川町文化財地図		5
5.	国指定特別天然記念物「ソテツ自生地」		6
6.	県指定史跡，天然記念物，「山川薬園跡及びリュウガン」		8
7.	町指定有形文化財「鰻地藏板碑」		10
8.	ク	「小川六地藏幢」	12
9.	ク	「正竜寺宝珠付角柱石塔婆」	14
10.	ク	「成川板碑」	16
11.	参考資料	「成川遺跡」	18
11.	あとがき		20
12.	編集委員		21

発刊にあたって

文化財は、祖先のたくましい創造力、たゆまざる努力によって生み育てられた、貴重な財産であります。

私たちは、これらの文化財を損傷したり破壊することなく、完全な姿で、次の世代に伝えてゆかなければなりません。

私たちの山川町でも、文化財保護条例が昭和47年に制定され、文化財保護審議会が発足いたしました。年々その保護管理と活用が図られております。

町教育委員会では、町内の国・県・町の指定文化財を、広く町民に知っていただくために、本冊子を発刊いたしました。関係者の方々が、これによって文化財を愛する気持ちを改めて確認していただければ幸いです。

昭和 54 年 3 月 19 日

山川町教育委員会
教育長 久保 市 夫

古 為 今 用

山川は歴史と文化のまちである。遠くは弥生期における隼人族の立石文化圏の存在を物語る成川遺跡、近世に至っては薩摩の武士アンジロウが南海のマラッカからザビエル師を先導して山川港に寄港し、華麗でもあり、悲劇的でもある南蛮キリシタン史の序幕の舞台となった。

薩摩藩禅宗の勃興期から明治初年にかけて薩南の文教の中心をなしたといわれる正竜寺跡、それに島津の琉球植民地化を成功に導いた遠征軍出陣の史蹟、前田利右衛門翁が琉球から甘藷を持ち帰り、これを青木昆陽が全国に広め飢饉を救ったという史実もある。

この外われわれの祖先の生き様の歴史が多く残されている。文化財保護審議会はこれらの史実を掘り起こし、現代のために保存し活用する役目を課せられている。過去六年間の集積は石造物に限られているが、逐次その枠を拡げるつもりである。

昭和 54 年 3 月 19 日

山川町文化財保護審議会

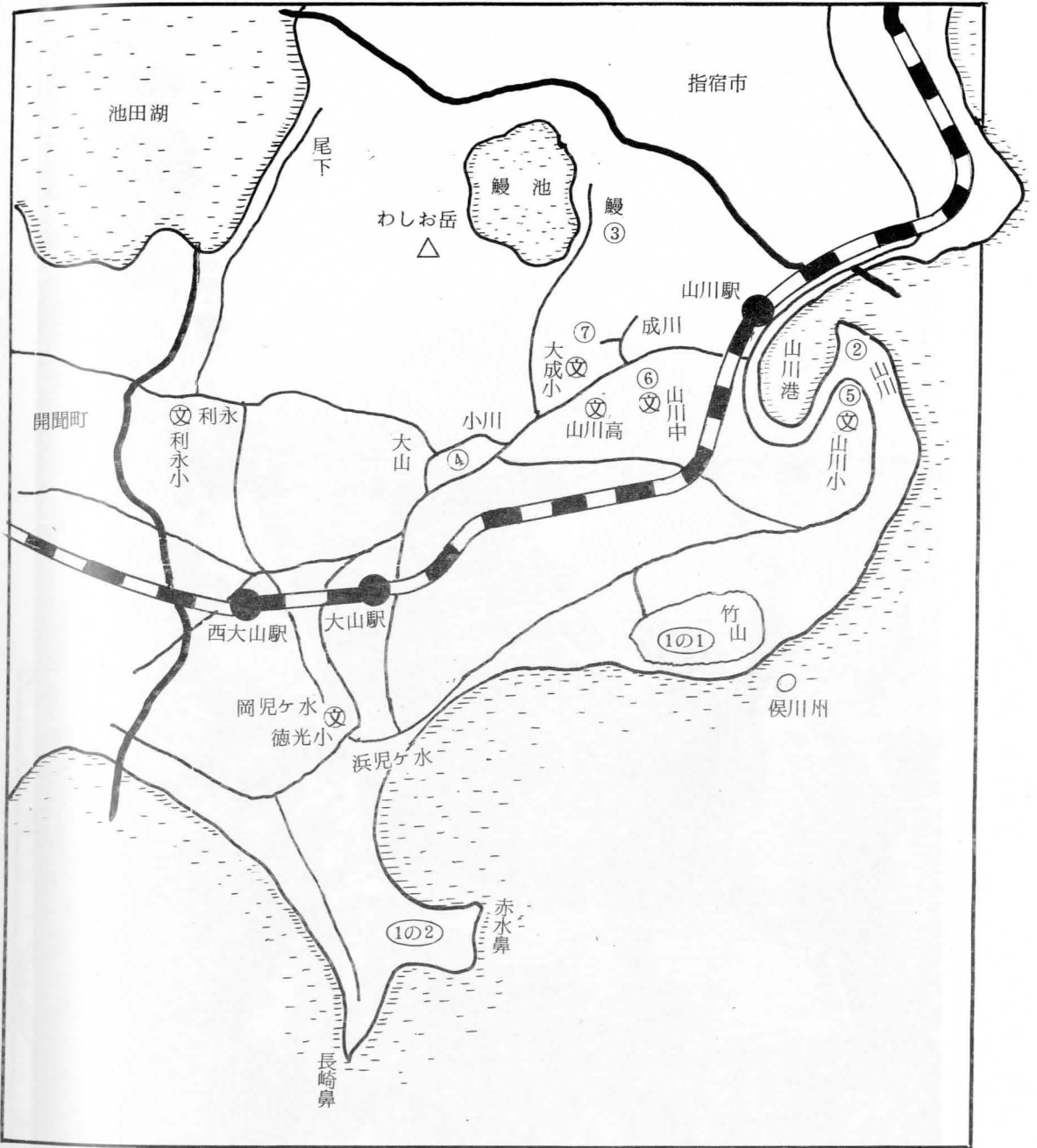
会 長 内 田 潤 平

山川町文化財一覧

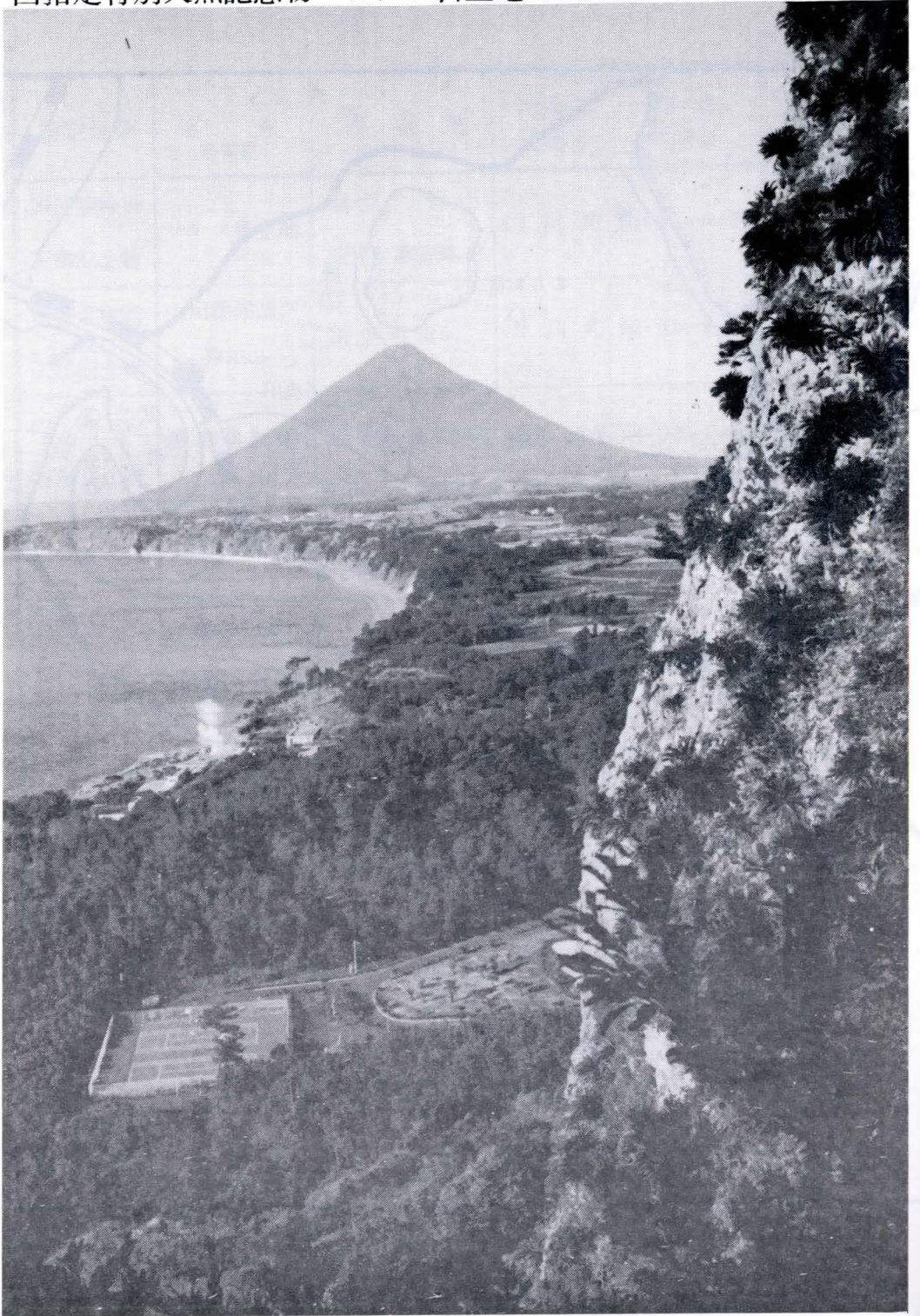
指定区分	名 称	所 在 地	所有者 管理者	指 定 年月日	地図 番号
国指定特別 天然記念物	ソテツ自生地	福元 竹山 岡児ヶ水赤水鼻	山 川 町	昭・27・3・29	①の1 ①の2
県指定史跡 及 天然記念物	山川薬園及び リュウガン	新生町 35	山 川 町	昭・29・3・22	②
町 指 定 有形文化財	鰻地藏板碑	鰻地藏坂 6261	林田 岩吉	昭・50・1・7	③
”	小川六地藏幢	小川納骨堂前	小 川 区	昭・49・7・16	④
”	正龍寺宝珠付 角柱石塔婆	福元教宗庵墓地	福 元 区 町 区	昭・49・7・16	⑤
”	成 川 板 碑	成川井手方 1204	中藪 栄二	昭・49・7・16	⑥
参 考 資 料	成 川 遺 跡	山川町成川曲道	前藪 勲		⑦

(昭和53年3月現在)

山川町文化財地図



国指定特別天然記念物 ソテツ自生地

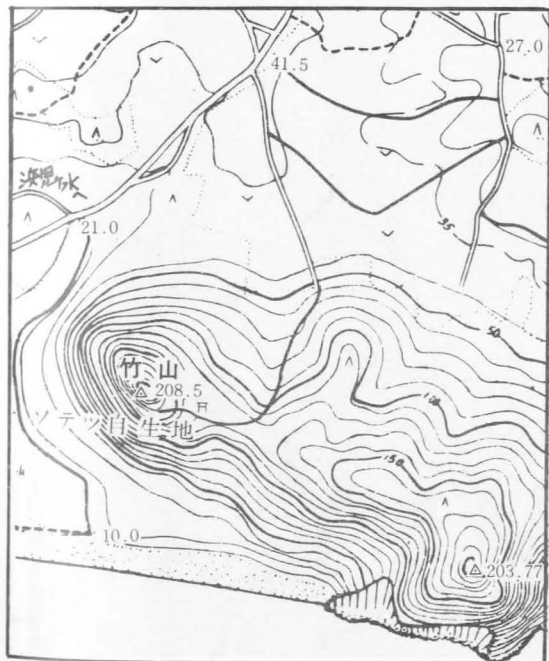


竹山と赤水鼻一带にあるソテツは、自生したソテツである。ソテツ科には数種類あるが、ほとんど熱帯、または、亜熱帯の産である。

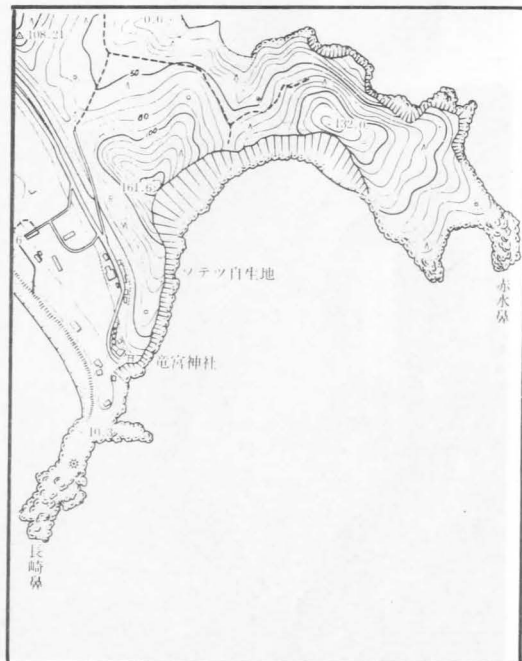
その一種だけが、日本の南端にある坊津・佐多・内ノ浦・山川に達した。いずれも、やゝ乾いた原野の岩石の間に自生する。

国指定の特別天然記念物であるから、荒らしたり、盗みとることは、法で厳重に禁じられている。

竹山付近地図 (1の1)



赤水鼻付近地図 (1の2)



県指定史跡 山川薬園跡及びリュウガン



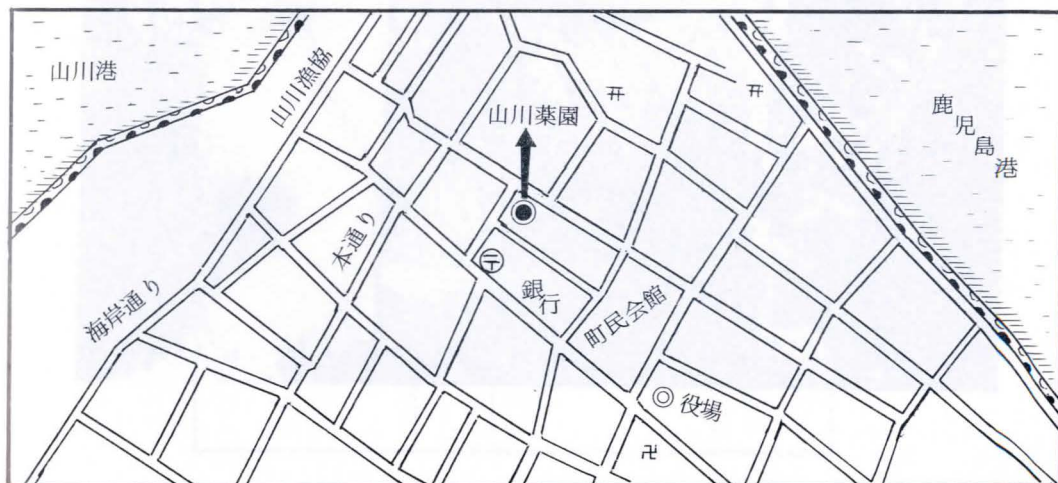
薩摩藩では最も古い薬草園が、万治二年（1659～約320年前）山川に開設された。当時は、山川の島津薬草園といわれ、レイシ・ハズ・キコク・カンラン・リュウガンなどの薬用植物が栽培されていた。

現在は、熱帯に生育するムクロジ科のリュウガン二本を残すだけである。このリュウガンは、樹令300年と推定され、根回りが7尺にも達している。

毎年10月末頃には、直径1.5センチ程の茶褐色の実が今もなお熟している。明治の終りごろまでは、東京の島津邸へ献上されていたという。

薬園の史跡と天然記念物としての意義をあわせもつ大切な、リュウガンである。

付近の地図 ②





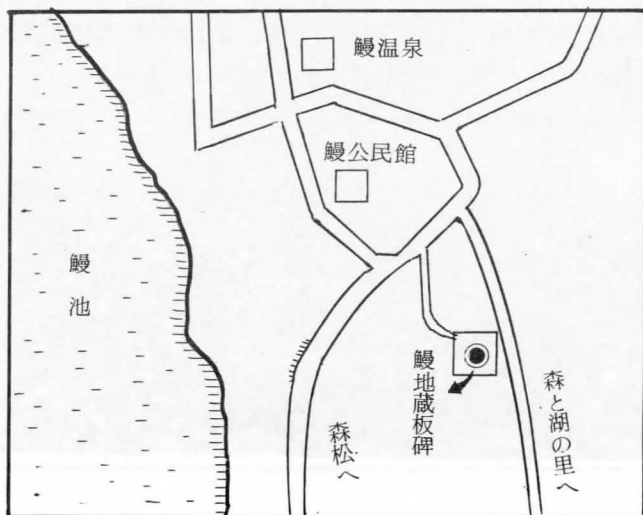
鰻地蔵板碑は、南北朝時代の元徳四年（1332～約650年前）に造立され、「地蔵」を表現する梵字が刻まれている。かたわらの御堂にも、木像の地蔵菩薩一体が安置されている。

こうした地蔵信仰が、鰻温泉に定着したのは、こゝに「地獄」があったためであろう。今もなお、近隣の村人たちによる信仰があつい。（特に、1月15・16日の地蔵さん祭りの日）

また、この板碑には、北朝年号が使用され、この地が、北朝方の勢力圏だったことをうかがわせる。

造型的には、関東の板碑によく似て、その古式を伝え、歴史上貴重な資料である。

付近の地図 ③



町指定有形文化財 小川六地藏幢



六地藏幢は、六道（ろくどう）を輪廻している衆生を救うものとして、室町時代に多く造立された。

この幢には、小川の豪族とおもわれる法名「雲心浄秀上座」とその妻が、天文二十二年（1553～約420年前）生前に「現世安穩」と死後の「安楽国への往生」を願う旨の銘文がある。

この幢は、幾百年の間、小川の村人たちが、死者に対する供養として大切に保存してきたものであり、銘文・造型ともに当地方を代表する貴重な資料である。

付近の地図 ④



町指定有形文化財 正竜寺宝珠付角柱石塔婆

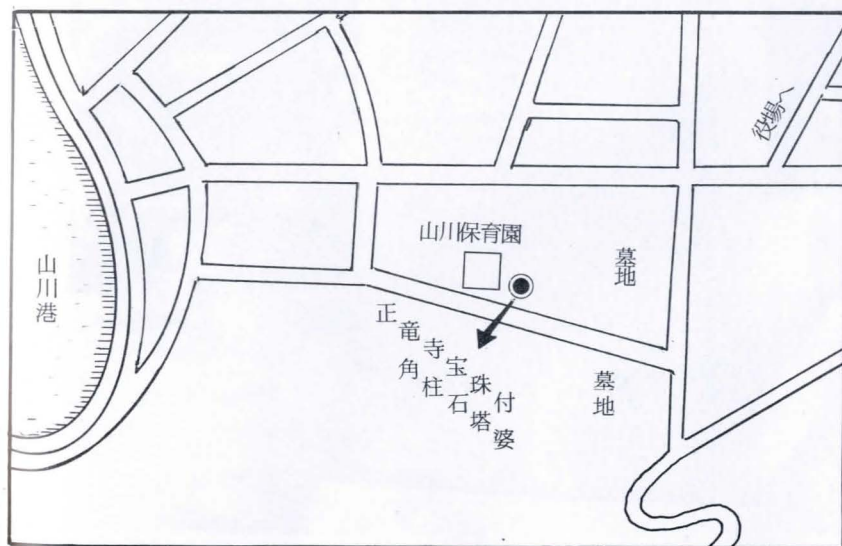


正竜寺宝珠付角柱石塔婆には、阿弥陀三尊・釈迦三尊・金胎大日如来とを彫出した薬研彫（やけんぼり）の梵字（種子）が刻まれている。

銘文によれば、□源上人なる人物が、戦国時代永禄十年（1567～約410年前）山川に来て、二十一日間逗留し、多くの人びとを集めて念仏講をおこなったことが理解される。

この塔婆は、当時の信仰の実態を偲ばせるだけでなく、池田隼人助夫婦と網屋与柴左衛門允夫婦という経済的支援者の俗名を明記し、かつ造型上からも貴重な資料となっている。

付近の地図 ⑤



町指定有形文化財 成川板碑



成川板碑のある高台は、鳴河を治めた鎌田氏居城の跡と伝えられ、指宿の殿に対して「西殿」という。今もなお、「から堀」をのこしている。

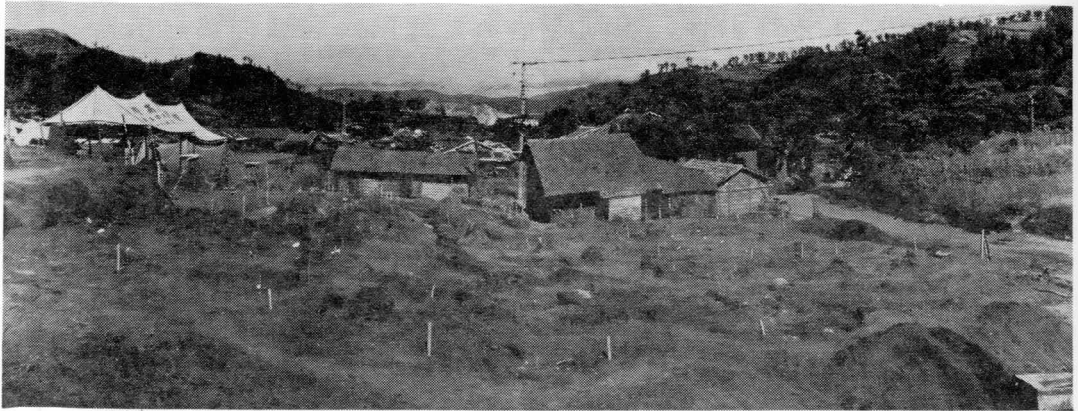
銘文によれば、戦国時代・天正四年（1576～約400年前）鎌田政成が、西国三十三ヶ所の観音の霊場を巡礼したことが理解される。群雄割拠の戦国の世に、遠く近畿地方にまで巡礼した政成の信仰の深さがしのばれる。

当地方におけるこの時代の板碑は、ほとんど角柱型であるが、これは、関東の板碑によく似て、薄型である。当時の信仰の状況と造型の研究上貴重な資料である。

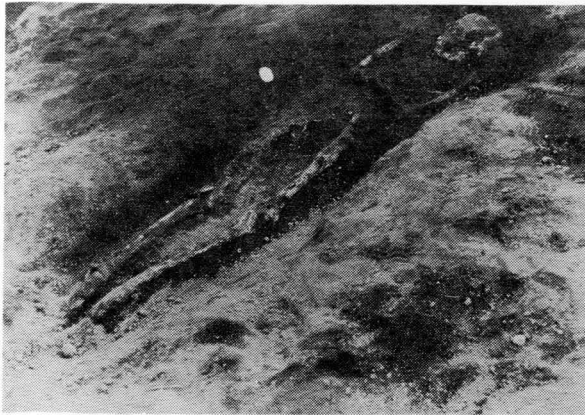
付近の地図 ⑥



成川遺跡



発掘の様子



発見された人骨



現在の全景

成川遺跡は、昭和三十三年、国や県の学術調査団により発掘された群集墓である。出土した人骨は、約三百体。副葬品は、刀剣・鉄ぞく・多数の土器・高杯などである。

中でも最も珍しいものは、立石土壙墓で、2メートルにも及ぶ数本の標石を立てて、その周囲に死者を埋葬していたことである。

歴史的には、弥生の中期から古墳時代にわたっている。今から約1,500年も前のことである。古代隼人との関連も深い。

出土品は、現在、県立博物館に保管されている。

付近の地図 ⑦



あ と が き

全国各地で、文化財の「空前の大発見」がつづいている。いわゆる開発にともなう緊急発掘によるものである。

山川町内には、世間をさわがせるこうした派手な発見はない。だが、それなりに、山川の歴史を解明する手がかりとなる発見はつづいている。

これらの文化財は、いままでしられなかった新事実を語り、あらたな文化的課題を提起してくれるにちがいない。

発見された文化財は、町民全体のものである。当然町民に報告され、活用されねばならない。

この冊子が、町民各位の心の成長に役立てば幸いである。

(松 下 記)

